

FREE 岡山ムーブアップ vol.16
SEP 2015

岡山から日本を元気にするフリーペーパー

OKAYAMA MOVE UP

SPECIAL FRONT INTERVIEW

石井 杏奈

E-girls

い
っ
ち
よ、
ハ
ジ
け
ま
す
か
っ



SPECIAL INTERVIEW-2- 中西 圭三×Lugz&Jera

PHOTO REPORT [7.14 JAPAN MOVE UP -SPECIAL EDITION vol.6-]

DANCE EARTH PARTY

EXILE ŪSA/EXILE TETSUYA/Dream Shizuka

SPECIAL COLUMN

EXILE TETSUYA

SPECIAL FEATURE

HIGH&LOW
THE STORY OF S.W.O.R.D.





日本を元気に！
SPECIAL
INTERVIEW

E-girls 石井杏奈

E-girls ニューシングル『Dance Dance Dance』が9月30日にリリース。さらに初の主演映画『ガールズ・ステップ』が9月12日より全国公開。パフォーマーとして女優として、充実の活動を続ける石井杏奈。この秋、未来へ向かってさらなるステップを踏み出した彼女が、今の思いと大きな夢を語る！

撮影・裏東諒

「私にとってダンスとは、夢を与えられるもの。 E-girls とは、夢が詰まっている場所、です」

E-girls ニューシングルで新たな魅力全開！

一木「2011 年から E-girls のパフォーマーとして活躍しているわけですが、そもそもダンスを始めたきっかけとは？」

石井杏奈（以下：石井）「両親が、子供が生まれたらバレエを習わせたいと思っていたらいいんですけど、近所にバレエ教室が無くて（笑）。それで小学校2年生くらいに近くにあったヒップホップダンスのスクールに通うことになったのが、ダンスを始めたきっかけです」

一木「その後、5年生のときにダンス大会に出場してスカウトされたんですね。どんな気持ちでしたか」

石井「本当にびっくりしましたね、芸能界なんて自分には無縁の世界だと思っていたので。興味というか実感が全然沸かなくて、両親に話を聞いてもらっていたので、そのときのことをあまり自分では覚えていないんです（笑）。ダンスは好きでしたけど、当時はまだ自分にとって習い事の一環という意識でしたね。他にもそろばんも習っていたので、今日はダンス、今日は遊び、今日はそろばん、みたいな感じでした」

一木「そんな石井さんも今では E-girls の

パフォーマーとして活躍中ですね。9月30日リリースの E-girls ニューシングル『Dance Dance Dance』も楽しみです」

石井「今回はけっこうダンサブルな曲に仕上がっていて、E-girls のいつものカラフルでポップというイメージとはまた違った、カッコいいシングルになっているのでは、と思います。ミュージックビデオも見どころの一つです。いつもだとミュージックビデオではカメラ目線を意識して撮影することが多いんですけど、今回はカメラを意識せずに観客を意識して踊ったという感じでした。お芝居の撮影と似ている気

映画初主演！女優・石井杏奈の覚悟

一木「演技の道を意識し始めたのはいつぐらいですか？」

石井「小学校6年生の始めごろです。もし自分が芸能界デビューできたら、女優になりたいというイメージを持っていました。それで演技に興味を持つようになったんです」

一木「2012年にドラマ『私立バカレア高校』で女優デビュー後、着々と経験を積まれていますね。この秋には初主演映画『ガールズ・ステップ』も公開になります」

石井「最初、主演だと聞いたときには不思議な気持ちというか実感がわかなかったんですけど、台本を読んでいるうちに責任感とかプレッシャーがだんだん強くなってきて（笑）。でもそれと同時にうれしさもこみあげてきて、もういろんな気持ちが複雑に絡み合っていました（笑）」

一木「セリフの暗記や役作りも大変な作業だと思いますが、

がしましたね。振り付け師さんからも、表情は気にせず必死で踊って、という指示をもらっていたので、とにかくみんなで一つになって踊りました。まったく表情を気にしてなかったんですけど、アップは多くなかったのが大丈夫でした（笑）。そんな、メンバーが夢中で踊っている姿も見どころの一つになっていると思います」

一木「E-girls も活動5年目。これまでの“感動体験”ベスト3は？」

石井「まず3位は NHK 紅白歌合戦に出場したこと。2位は『ガールズ・ステップ』で映画初主演を務めたこと。そして

どのように行っていますか」

石井「台本を覚えることに関しては、今のところ長セリフがあるわけでもないの、わりと平気です（笑）。台本を覚えるときは、帰宅後も時間が少し空いたときや寝る前など、小まめに読むようにしています。役作りは、演じる人物の性格を自分なりに分析したり、その人物の背景を想像してみたりして肉付けしています」

一木「今回演じた主人公・あずさについてはどうとらえましたか」

石井「あずさは八方美人なところがあって、いつも周りの意見についていってしまうんですけど、逆にいえば、すごく素直で優しい子だから自分よりも人に合わせてしまうんだと思います。台本を読んでいるときには客観的に、もっと自分を出していいんだよ、と励みたい気持ちのほうが強かったんですけど、いざ自分が演じてみると、誰も傷つけないためにはどうしたらいいのか悩んで迷ってしまうあずさの気持ちが、すごく理解できました。学生時代の悩みって、本人たちにとってはすごく大きいことなんですよね。振り返ってみれば私も中学校のころ、あずさと同じようなことがあった

1位は去年アリーナツアー『COLORFUL WORLD』ができたことですね。特に私は1回目のアリーナツアーに参加できなかったのが、本当に感激しました」

一木「石井さんにとってダンスとは？そして E-girls とは？」

石井「私にとってダンスとは、夢を与えられるもの。E-girls とは、夢が詰まっている場所、です」

一木「ちなみに石井さんは E-girls の中でどんなキャラですか？」

石井「後輩キャラですね（笑）」

な、と」

一木「等身大の役どころとはいえ、役に入り込むのは大変では？」

石井「役への切り替えは、実はあまり意識していないんです。現場で“よーいスタート”の声がかかったら役になってる、みたいな感じ。役にならなきゃというより自分のなかで自然と役のスイッチが入る感じです。海のシーンや部活動の場面は“これって青春だよな！”と共感しながら演じることができました。私自身の場合は、友達とのおしゃべりとかテストに一喜一憂したりという日常的な青春ですけど（笑）」

一木「あずさたち“ジミーズ”はダンスに挑むわけですが、他のメンバーはダンス初心者が多かったとか」

石井「みんなが私にダンスのことをいろいろ聞いてくれたので、少しは役に立てたかな、とうれしかったです。あと、みんなで踊る姿を撮影してそれを見ながら反省点を出し合ったり、けっこうハードな筋トレと一緒に頑張ったり。ダンスのレッスンを通して物語の外でもみんなが一つになっていった感じですね」



さらに大きな舞台へ“ステップ”アップ!

一木「今後どんな“ステップ”アップを思い描いていますか？」

石井「パフォーマーとしては、ドームツアーができるようなアーティストになりたいです。女優としては、賞をたくさん撮れるような女優になりたいです。どんな賞？ それはやっぱりアカデミー賞最優秀主演女優賞です！ 私はまだこの道を歩き始めたばかり。この先長いので、一步一步頑張っていきたいと思っています。その中で、いろいろな“夢”を叶えていきたいですね。小学校のときの夢が保育士さんや看護師さんになることだったので、お芝居のなかでその夢を叶えられればうれしいですね。これからもいろいろな作品に挑戦して、いろんな夢を叶えていきたいと思っています」

一木「夢に向かう中で辛いときもあると思います。そんなときに支えとなるのは？」

石井「悩んでいても自分の中で解決してしまうことが多いんです。辛い時もあきらめたいと思ったことがなくて。一晩寝たら気持ちをリセットできてしまうので（笑）。ただ、この道に入るとき両親から“笑う門には福来る、だよ。どんなことがあっても笑っていなさい”と言われました。だから、いつも笑っていよう、と思っています。笑っていれば本当にいいことが起こりそうな気がします」

一木「最後に、夢に向かって頑張る読者にメッセージをお願いします」

石井「夢に向かって一生懸命頑張っている人ってキラキラ輝いていてカッコいいと思います。つまづくことや悩むこともあると思いますけど、一步を踏み出す勇気を大切にしてほしいと思います」



POSITIVE ITEM

元気をくれる思い出

たまに家に帰ったときに昔の家族旅行の映像とかを見ると、元気が出るというかどんなときも笑っちゃいます（笑）。

好きな食べ物

フルーツ、特にミカンが好きです。子供のころからミカンが好きなんです。祖父が私のために、いつもミカンを箱買いしてくれていて、学校でテストの点が悪かったりすると祖父のところに行って、ミカンをも

らってました（笑）

好きな本&マンガ

『ONE PIECE』。単行本派です（笑）。

好きな映画

泣いてスッキリしたい、というときには泣ける映画とか見ちゃいます。お気に入りには『同じ月を見ている』。これは号泣ですね。あと『きみに読む物語』も大好きです。

読者からの質問に石井杏奈が直接答える 答えて！ 石井杏奈さん

『ガールズ・ステップ』絶対に見に行きます！ 大好きな杏奈ちゃんが主演で GENERATIONS が主題歌なので映画を見るのがとても楽しみです！ 撮影で大変だったことを教えてください！（あやかさん）

A: 冬の海に入ったシーンです。みぞれが降っているなか海に入ったんですが、すごく寒かったです！

石井杏奈ちゃんは今回『ガールズ・ステップ』で主演をされましたがプレッシャーや悩んだことはありますか？（ゆうかさん）

A: 撮影中は、日々プレッシャーでした。で

も本当に楽しい現場だったので、楽しさのほうがプレッシャーより勝っていましたね。

ズバリ、E-girls の新曲『Dance Dance Dance』で、杏奈ちゃんが特に注目してもらいたいと思っているポイントを3つお答えください！（岡本葵さん）

A: ミュージックビデオはパートごとにシーンが分かれていて、私は山口乃々華と一緒に踊っているんですが、ちょっとミュージカル調の撮影の仕方になっているので、そこも見てほしいと思います。あと2つは…ぜひご覧いただいて、見つけてください（笑）

PRESENT

石井杏奈サイン色紙を質問者&読者3名にプレゼント！

読者3名に石井杏奈さんのサイン入り色紙をプレゼント。質問を送ってくれたあやかさん、ゆうかさん、岡本葵さんには名前入りサイン色紙をお送りします！

OKAYAMA MOVE UP

検索



OKAYAMA MOVE UP 総合プロデューサー 一木広治 (ICHIKI KOJI)

株式会社ヘッドライン代表取締役社長 / 二十一世紀倶楽部理事・事務局長 / 夢の課外授業総合プロデューサー / 2020 東京オリンピックパラリンピック招致委員会・事業広報アドバイザー (2011 年～2013 年) / LDH 顧問エグゼクティブプロデューサー / ローソン・ローソンHMV エンタテインメント顧問 / チヨダ顧問 / 総合PR 会社 vector (ベクトル) 顧問 / USEN 顧問 / 株式会社ファインシード顧問 / 株式会社 MOCA ENTERTAINMENT (フォーシーズグループ) 顧問 / 淑徳大学人文学部表現学科客員教授 / 早稲田大学理工学部 EDGE プログラム講師 / NEXT INNOVATOR 2015 サポーター

石井杏奈、映画初主演！
ダンスを通して、恋、友情、そして成長を知る青春映画

『ガールズ・ステップ』

地味でイケてない女子…通称“ジミーズ”が、ひょんなことからダンス部を結成することに！ 女子中高生の憧れ、E-girlsの最年少パフォーマー・石井杏奈。今年公開された話題作『ソロモンの偽証』での好演も記憶に新しい彼女がついに映画初主演！

石井演じる主人公・あずさとともにダンスに挑む“ジミ系女子”たちには、『魔女の宅急便』の小芝風花をはじめ、小野花

梨、秋月三佳、上原実矩らネクストブレイクの呼び声高いメンバーが勢揃い。いま最も勢いのあるグループ GENERATIONS from EXILE TRIBE の『ALL FOR YOU』が歌う主題歌にも注目。劇中のダンスシーンでも使用されるミドルテンポでキャッチーな楽曲が映画の世界観を盛り上げる。

友情に、恋に、ダンスに…全力で挑む女子たちの成長に、誰もが共感できる、ガールズエンターテインメント。



©宇山佳佑／集英社 ©2015「ガールズ・ステップ」製作委員会

【STORY】幼いころにいじめられたトラウマから、誰に対しても調子よく接してしまう高校2年生のあずさ（石井杏奈）。ある日、あずさはひょんな出来事から、ダンス部を結成するはめに。一緒に集められたメンバーは、クラスに友達のないボッチで地味な4人。根暗の愛海（小芝風花）に勘違い女の葉月（小野花梨）、それからガリ勉の環（秋月三佳）にヤンキーの美香（上原実矩）。通称“ジミーズ”と呼ばれる面々だった。さらに、コーチとしてやってきたケニー（塚本高史）は、とにかくチャラくて胡散臭い人物。もともと友達のない“ジミーズ”に、チームワークなど芽生えるはずもなく、ダンスもさっぱり状態しない。しかし、失敗を重ねながらもひたむきに挑む彼女たちに、まさかの友情が芽生えはじめ…。でもこの友情は本物？ 初めての感情に戸惑うジミーズ。果たして彼女たちは本当の「仲間」と呼び合える存在になれるのか。そして、ダンス選手権という大きな舞台に挑むことを決めたジミーズの行方は…！？



監督：川村泰祐 出演：石井杏奈、小芝風花、小野花梨、秋月三佳、上原実矩、磯村勇斗、大東駿介、音月桂、山本裕典、塚本高史他／主題歌：GENERATIONS from EXILE TRIBE『ALL FOR YOU』／東映配給／9月12日より全国公開 <http://www.girls-step.com/>

『ガールズ・ステップ』 舞台挨拶で“ジミーズ”再結成！？



映画『ガールズ・ステップ』の完成を記念して、8月24日、主要キャストが集まる夏祭りが、都内で行われた。全員が浴衣や甚平姿で出席し、撮影時を振り返りながら、ワイワイと盛り上がった。

劇中、息の合ったダンスを見せるメンバー。イベントでもチームワークは抜群。印象に残っているシーンを聞かれ、石井が「海辺で思っていることを告白しあうシーン。寒くて電が降ってきて凍えながらだったんですが、海に向かっていくシーンを…3回もやって…」と話し出すと、ジミーズメンバーはニヤニヤ。その理由が長いスカートを履いていた岸本環が“ズルして”スカートの下に着用していた股引が見え

てしまったためと明かされると、岸本は「言わないっていったじゃ～ん!」。その後も他キャストが股引とリピートし、会場は大爆笑だった。

クランクイン前のダンスレッスンから長い時間を過ごしたことで「ジミーズみたいに絆が強まったのかなって思います」と、石原。映画のラストでは、キレのあるダンスを披露するダンス部5人組“ジミーズ”だが、石井を除く他4名はダンスはほぼ初心者。石井は「ダンス歴がないなかで、基礎から、筋トレからやっていました。いろいろあるなかで、昨日覚えた振りは次の日にはできていて、刺激を受けました」と話した。

E-girls NEW シングル
『Dance Dance Dance』9月30日リリース！



今年の5月にリリースされた『Anniversary!!』に続く、待望の NEW シングル『Dance Dance Dance』が9月30日にリリース！ 史上最高のダンス・グルーヴで、E-girlsのニューサウンド&スタイルが幕を開ける！ 未体験ゾーンへ突入する待望のニュー・シングル。

オフィシャルホームページでは『Dance Dance Dance』のミュージックビデオも公開中。ダンサブルな世界観を、圧巻のパフォーマンスと映画のようにドラマティックな映像を楽しんで！

『Dance Dance Dance』
【発売日】9月30日（水）【販売形態】CD+DVD 1800円／CD 1200円／CD（ワンコインシングル）500円（各税別）【URL】<http://e-girls-ldh.jp/>



EXILE TRIBEが放つ、世界初の総合

音楽、ダンスパフォーマンス、演技などあらゆる表現を注ぎ込んで、唯一無二のエンターテインメントを創り、届けている、EXILE TRIBE。新たに挑むのは、世界初の総合エンターテインメント・プロジェクト『HiGH&LOW』（ハイ・アンド・ロウ）だ！

全国的に猛暑日が続いていた8月11日、EXILE TRIBE、そして『HiGH&LOW』というワードが、新聞を始めとしたさまざまなメディアで躍り、インターネット上はざわついた。世界初の総合エンターテインメント・プロジェクト『HiGH&LOW ～THE STORY OF S.W.O.R.D.～』（以下、HiGH&LOW）が始動、それとともにその概要が明らかにされたのだ。

日本テレビとEXILE、三代目 J Soul Brothers らが所属するLDHがタッグを組み、考えつくかぎりのメディアを巻き込ん

で展開する大型プロジェクト。同名の映画(2016年7月16日全国公開予定)を軸に、テレビでこの10月から深夜連続ドラマ（日本テレビ）がオンエアされ、同時期にオンライン動画サービスのHuluで連続ドラマのディレクターズカットを加えた特別版を配信。さらには複数のマンガ誌で、それぞれ異なる視点からのストーリーで連載がスタート。2016年には、EXILE TRIBEのグループの垣根を越え、『HiGH&LOW』の世界を表現するオリジナルアルバムを制作、さらにこの作品を携えたライブツ

アーも行われる予定だという。

類を見ないスケールの壮大なプロジェクト。企画プロデュースを担当するEXILE HIROは、「世の中をビックリさせたい、ワクワクさせたいという気持ちと、EXILE TRIBE メンバーの夢や、普段からのアーティスト活動や役者活動などを照らし合わせていくうちに様々なアイデアが生まれてスタート致しました」（原文ママ）と、本プロジェクトのきっかけを説明する。音楽、ダンス、芝居と活動範囲を広げているEXILE一族ならではのスケール。日々、新しいフィールドへと拡大している彼らにとって、現時点では最もフィットしている規模のプロジェクトと言えるだろう。

さて、この壮大なプロジェクトの要と

なる映画だが、舞台となるのは、5つの不良グループが勢力争いを繰り広げる「SWORD 地区」と呼ばれるエリア。各チームがそれぞれのプライドをかけて闘い、そこに謎の組織も入り込んでくるという。

ストーリーは完全オリジナル。俳優で同作のプロデュースも手掛ける平沼紀久は、8月21日、ラジオ番組『三代目 J Soul Brothers 山下健二郎のオールナイトニッポン』（ニッポン放送）に出演し、このプロジェクトについてトーク。EXILEのHIROが語った“こういうことをやりたい”という話を平沼がメモ、人物相関図を作ったことから始まっていること、劇中にはHIROの学生時代経験や実際に出会った人々がベースになっている人物が複数登



これが、プロジェクトの概要だ！

- 【映 画】 2016年7月16日(土) 全国公開
- 【ドラマ】 2015年10月期 日本テレビ深夜連続ドラマ
- 【配 信】 2015年10月から Hulu にて連続ドラマ特別版
- 【コミック】 別冊少年チャンピオン&ヤングチャンピオンで連載
- 【S N S】 Instagram 毎日更新！ ドラマ連動企画も！
- 【音 楽】 2016年オリジナルアルバム発売決定！
- 【ライブ】 2016年映画・ドラマ連動 LIVE ツアー

エンターテインメントプロジェクト

場すること、山下と岩田剛典（EXILE、三代目 J Soul Brothers）が演じる役どころは「HIRO さんの思い出の人物」であることも明かした。関係者が初めて語るプロジェクトの内容だっただけに、大きな反響が寄せられたという。

男たちが、それぞれのプライドをかけて闘うというだけに、アクションシーンにも期待が寄せられる。担当するのはこれまでにないアクションシーンで度肝を抜いた映画『るろうに剣心』シリーズを手掛けたチーム。9月のクランクインを控えて、すでに殺陣の練習が始まっているようだが、「(パンチやキックを)当てていいですから!」と、あえてフィジカルコンタクトも辞さない本気の練習にキャストも驚きが隠せないとい

う。スクリーンではリアリティーのある格闘シーンが見られそうだ。

また、物語は、登場するキャラクターの SNS『Instagram（インスタグラム）』の投稿から展開することも明らかになっている。プロジェクトの概要発表と同時に、3名の登場人物による『インスタグラム』の更新がスタートしており、すでに多くの写真が投稿されている。それぞれの写真には作品の世界観が反映されており、投稿が増えるたびに作品への期待が高まっている。すでに、各アカウントはたくさんのフォロワーを集めていて、日々その数は増え続けている。EXILE TRIBE の人気もさることながら、この壮大なプロジェクトへの注目度の高さも分かる。

監督は多くのミュージックビデオやライブ映像を EXILE HIRO とともに作り上げてきた久保茂昭。久保は、本プロジェクトで映画・ドラマの監督に初挑戦するが、EXILE TRIBE の作り上げる世界や EXILE TRIBE の精神に通じているだけに、ベストなタッグといえるだろう。脚本は本プロジェクトのために集められた脚本家集団 Team HI-AX（チーム・ハイアックス）が担当する。

映画の全国公開に先駆けて、10月からは同名の連続深夜ドラマも始まる。EXILE、三代目 J Soul Brothers、GENERATION S from EXILE TRIBE、劇団 EXILE、さらには E-girls と、EXILE TRIBE の面々が一堂に会し、盛り上がりを見せそうだ。

「日ごろから僕は“Love, Dream, Happiness”を根本に活動しておりますが、今回のプロジェクトでは、普段僕らがライブや作品などを通して伝える伝え方とは全く別の角度から、“Love, Dream, Happiness”を届けていきたいと思っております。この HIGH & LOW を中心に、LDH ならではのエンターテインメントを創造していき、今までにないさまざまな展開を見せていくので、ぜひ期待して楽しみに待っていて下さい」(EXILE HIRO)

EXILE TRIBE が贈る、世界初で壮大なスケールの唯一無二のエンターテインメント。彼らの動きから、これまで以上に目が離せなくなりそうだ。

——今年で 5th Anniversary となる
MUSIC TRIBE についての意気込み

Lugz&Jera（以下、LJ）：僕が5年前にこのイベントを立ち上げたときの岡山は、地元のアーティストが地元で何かをしているということがあまりないように感じていました。特にこういった僕らのような音楽で何かをしているのはなかったですし、それをシーンと言うのならシーンがなかった状況で、何か盛り上げられることや、しっかり発信ができる場を作りたくて立ち上げたのがきっかけです。ただ、やっていくうちにあたって、岡山の街に居ながら岡山地元、出身のアーティストと一緒に何かをやっていく機会もそんなになくて、何かしたいと思いながら1、2年を過ごしていく中で、2013年に僕の故郷の高梁市で音楽祭を立ち上げ、去年の5月に真庭市で音フェスというイベントで、いつか一緒にイベントで共演したいと思っていた大先輩の圭三さんオファーをさせていただき、快く引き受けていただいたことから生まれたものがあったのかなと思っています。MUSIC TRIBEは東京からアーティストを呼んで、岡山の方、県外の方も集まってもらうフェスのようなイベントなんですけど、その同じイベントの枠として前夜祭、後夜祭を行い、岡山出身のアーティストを集めたいという想いが

”ふかふかした土壌“が岡山発信のキープポイント。

あって、今回の5周年という節目で、圭三さんを始め、葛城ユキさんという地元のアーティストに出演いただき、世代もジャンルも越えたイベントを企画しました。

中西（以下、中）：このイベントはほんとにすてきな企画だなと思っていました。LJ君自身が岡山に住んで、岡山に根をはわせるようにいろいろな活動を行っていて、そこに今までの実績を交えて地元に戻元していくことで、岡山を知らないミュージシャンにも岡山を知ってもらうきっかけになったり、岡山の人にとっては、アーティストと繋がり、交流を持てるような場所を自分の故郷に作っていく。簡単そうで本当に簡単なことではないです。『岡山を盛り上げたい』という想いで岡山に戻り、そこからすべてが始まっているということが“新しい感覚”だなと思いました。私が応援できることは応援していきたいですし、岡山の中で大きな木になって欲しいと思います。岡山では同じような想いで、岡山音楽祭もやってきました。いろいろな役割の中で、自分が担える役割をやってきたつもりではあるんですけど、思うようにいかない部分や、力足らずな部分はあったんですが、今は個人のネットワークを軸にしながら、それについての協力者を周りに仰いでいき、想いのあるアーティスト主導のイベントが岡山に立ち上がっていくことは本当にすてきだと思うので、頑張っ

——お2人とも岡山出身なのですが、やはり岡山で LIVE をするときは違ったモチベーションがありますか？

中：やっぱり地元だからこそ、という想いは深いし濃いです。そういう意味ではテレビから流れる東京での活動を情報の主体に動いてきたのが90年代の主流だったかもしれないけど、2000年以降、デジタルの革命と言ってもいいほど、facebookやtwitterなどのSNSが普及し、世の中の仕組みが変わるぐらい、個人に発信する力、繋がっていく力が戻っていくようになって、それをどうやって使って今の時代らしく発信していこうかな、とか感覚としてはわかっているんだけどなかなか出来ずにいる。でもLJ君の世代はそれを上手にを使って、バーチャルではない世界に落とし込んで、移替えていける、次なる新しい世代だと思います。なので、特別なモチベーションはありつつも、使い方、時代の中での自分の背負わせ方というのは必ずしも上手にはいかないなと感じています。逆にLJ君は

上手にやってのけている感じがしますね。
LJ：非常に責任が重しかかるような、ありがたいお言葉でもあり、重く深いお言葉です。自分は元々関西や関東にいたので、東京から岡山に遠征でLIVEに来るときだと、『帰ってきました』というような意識ですんなりいけるんですけど、岡山に住んでながら、定期的に岡山でLIVEをすると、場所や企画が違えど、毎月同じようLIVEを重ねると同じLIVEができなくなるんですね。岡山の方ってミーハーなんですけど、ミーハー故に好きになったらとことんという反対の側面も持っているので、「前回のLIVEの方が良かったね」って言われるのが、アーティスト的にも



嫌なので、毎回アップデートしたいという想いがあります。なので地元岡山でやるというのは、毎回緊張しますし、目標というか自分がどういったエンターテインメントを届けられるかを考えています。アナログとデジタルのお話をされていたんですけど、僕らの世代は特にCDを買い、リスナーだった世代だと思うんですけど、今の世代はまさにCDの時代からデジタルに橋渡しをしている世代だと思うんですね。もう少し若い世代になると、CDって何？というような時代に入っていくと思うんです。そんな中で、ちょうど真ん中にいる僕らの世代が、上手く橋渡しをしているかなければならないなと感じます。

中西 圭三 Keizo Nakanishi

岡山県出身のシンガーソングライター。1992年シングル「Woman」が大ヒット、同曲で日本レコード大賞作曲賞を受賞し、第43回紅白歌合戦に出演。提供曲は、1992年のZOO「Choo Choo TRAIN」（1998年に中西自身がセルフカバー、2003年にはEXILEがカバー）1998年のBLACK BISCUITS「Timing」など多数。また、地元岡山「岡山国際音楽祭」のプロデュースなど、多岐に渡り音楽でのコミュニケーションを目指して精力的に活動を行っている。

中：遂には『聴き放題』という時代に入ってきて、音楽の価値や、それを演じているアーティストのキャラクターとか、想いなどが、どれだけ伝えられるか。僕らの時代はアルバムで伝えていこうという気持ちはあったけど、今はアルバムというより1曲単体。この曲が好きかどうかという、ある種の情報として飛び交っている時代だと思うんです。そんな時代の中で、ちゃんと気づいてもらって、好いてもらっているのは非常に難しいと思うんです。だからこそ、LIVE 空間という場所で、もっと分厚くその人となりを上手に伝えていくことが重要になってくると思います。そんな場所で毎回アップデートしながら



活動する LJ 君は素晴らしいと思います。
LJ：体は衰退しながらも、気持ちだけはアップデートしていきます！（笑）
中：本当に素晴らしいです。また、橋渡している感覚も、まさにど真ん中でガンガンやっていく世代に突入してきたなって感じ。次の世代のことも自分たちの世代のことも、まさにフロンティアのように耕していく人なので、そこには苦勞も多いだろうけど、『ふかふかした土壌』ができれば、種も植えやすいし、芽も出やすいと思うので頑張って耕して欲しいです。岡山で行われる岡山のイベントに自然に人が集まってくるという状況が生まれれば本当に素敵ですからね。

——岡山のエンターテインメントの可能性についてどう感じられていますか？

中：『やるかやらないか』だと思うんです。みんな岡山で感じていることはたくさんあって、それをピックアップして育ててくれる環境がたまたま東京にあったから、東京で芽吹いたということであって、それを育てて来たのは岡山で、僕自身も18年間岡山で育ってきたので、可能性っていうのは間違いなくあります。今情報といっても、どこにいても変わらない時代だから、そういう意味では、たくさんさんの情報を携えて育ってくるものもより力強くあると思うし、LJ 君が行うような LIVE などでもっと目に見て触れる刺激のような昔にはなかったものもあるので、そんなど真ん中でいろいろなことを行う人たちと触れ合い、学ぶことができる恵まれた場が、今岡山にあるので、それを利用しながら、肥えた土壌をつくれれば、普通に芽吹いていくと思います。岡山にいながら、ヒット曲をばんばん飛ばして、それを応援している岡山の人がいるというのは素敵なことだし、理想ですよ。ツールは揃っているの、あとはそれをどう使って、何を発信するか。やっぱりミュージシャンが育つだけではダメだと思うんですよ。周りの環境、例えばビデオをつくるためのチームが岡山にあったり、それが『ふかふかの土壌』の1つでもあるかもしれないけれど、そういったことも同時に育ててオール岡山産の作品が出てきてほしいと思います。
LJ：圭三さんが言われたことがほとんどなんですけど、僕も自分の作品でも『オールメイド岡山』、全部岡山で作られているっていう、こだわる瞬間も絶対ないといけないと思っています。自分自身が岡山に帰って来て感じさせられたことでもあるんですけど、1 から10 まで岡山で出来る環境を作れる人が作っていないといけないと思うんです。もしかしたら自分もその中にいるのかもしれないし、そう気づいた瞬間からジャンルを越えてどんどん発信をして、その発信する人たちが違う場面でリンクして、もう1つ違うステージで発信が出来るんじゃないかなと感じています。アーティストも含め、音楽の文化自体を次のステージに持っていく何かをやりたいですね。あとは、岡山の中心は岡山市、倉敷市だと思うんですけど、県北のほうで音楽イベントをしたときにすごく感じたのは、ダンスをやっている子どもたちや、歌っている子どもたちなど、すごく実力があるんですけど、ただ、きっかけがないんですね。今は

オールメイドオカヤマ。次世代に繋げる新たな環境。

まだ、自分がやっていることと、夢や目標とのギャップがあるんじゃないかなと思うんです。まだ課外活動の1つとしてやらされているようなところもあるので、そういう子たちが高校生や大学生になったときに、ダンサーや歌手になりたいとなったときに、それが全部岡山でつくれるという環境を作っていきたいですね。次の世代が何かやりたいなら東京へ行くという感覚ではなく、やりたいことが岡山で叶うという、選択ができる場所になったらいいと思います。
中：そうだね。いろいろな条件が揃わないと東京に出るのは難しく、東京に出られないからその夢を諦めないといけない状況がなくなることだけでも相当すごいことだと思う。いろんな条件の中でも諦めずに、傍らで夢を膨らませ続けられる土壌、キャパシティの大きさが何かを変えてくれるかもしれない。今の時代は音楽が出来ることというか、音楽も頑張れるところも見つけていけないといけなような時代かもしれない。よりリアルに、そこに居て欲しい音楽になれるか、どうすればそういった人たちの傍らに寄り添える音楽になれるかを具現化していくことが、次のステージにあるんじゃないかなと思います。

photography：宗村 和磨（NEMURA FILMS）

Lugz&Jera ラグズ・アンド・ジェラ

唯一無二のスイートヴォイスと天性のメロディセンスを兼ね備えた岡山出身の男性シンガーソングライター。地元岡山にて自身が主催する音楽フェス"MUSIC TRIBE"のプロデュースを始め、その他音楽祭のイベントプロデュースなど多岐に渡り活動を行う。アーティストとしてはもとより、プロデューサーとしてもその手腕を活かし若手育成や楽曲制作等日本でも数少ないトータルプロデュースを行う。

DREAM ARTIST

vol.7 SHOGO 「世界でストリートライブをしたい！」

インタビューア：玉川洋輔

玉川洋輔 ワンマンLIVE — COLOR —
 【場所】BLUE BLUES（岡山県岡山市北区表町3丁目12-12）【日程】10月18日（日）【料金】前売り2000円 当日2500円+1ドリンク制【時間】開場18時00分～ 開演19時00分～
 Ameba：http://ameblo.jp/0912yosuke1225/
 facebook・Twitter：玉川洋輔で検索



on Starting Point — SHOGO のはじまり —

「あれだってバイオリンを指差した！」

玉川：バイオリンを弾き、歌うというSHOGOさんですが、そもそも音楽をはじめてきっかけは？

SHOGO：幼稚園、まだ4歳のときに、家族でオーケストラ公演を見に行ったことがあったんです。母親が何か習い事をさせたかったらしくて、その流れでチケットをいただいたってことだったらしいんですけど。それで、会場で母親に「習うなら何がいい？」って聞かれたんですね。その時、バツとバイオリンを指差しました。実際に習い始めるのは5歳からなんですけど、いろんなところで習って、個人の先生に師事しました。

玉川：楽曲を聴かせていただきましたが、アゲアゲなものが多いですね。ロックやレゲエなんかも好きですね。

SHOGO：好きですよ。でも一番好きなのは四つ打ち。トランスやエピックですね。クラブに行くようになってから聞くようになったんです。

玉川：トランスとバイオリン……なんか…すごく異色な雰囲気ですね！（笑）

SHOGO：それがそうでもなくて。シンセサイザーとバイオリンの音って近いものがあるなって思いますね。

玉川：それから現在のバイオリンのスタイルに移行していくのは？

SHOGO：大阪に出てからです。16歳で大阪に出たんですけど、仕事して、音楽やって、劇団にも通ってっていう生活をしていました。音楽は、歌が好きだったのでストリートで弾き語りで歌っていました。そしたら当時勤めていた会社の人が「歌を歌える人なんて星の数ほどいる、他に楽器できないのか」って。バイオリンができると言ったら、「なら、それをやれ！」って。それがきっかけになってバイオリンでストリートに出るんですが、弾いたらその瞬間に100人ぐらい集まったんです。これはイケる！（笑）と。そこから始まってますね。

on Music — SHOGO の音楽 —

「バイオリンのイメージを打ち破りたい」

玉川：とはいえ、ストリートでバイオリンって珍しいですよ。

SHOGO：外でバイオリンを弾くっていうのはヨーロッパにはあるスタイルなんですけど、日本にはその文化はないですから。それに、バイオリンってクラシック音楽のカラーが強いんですね。そのイメージを打ち破るっていうと、第一人者として葉加瀬太郎さんがいますけど、僕はそ

の上を行きたい。葉加瀬さんの作品にはクラシック音楽が必ず軸にあるんだけど、僕はその枠を外してジャズだったらジャズ、クラブの曲だったらクラブの曲を、バイオリンを入れてクールに決めたいんです。だから、ポップスも弾いていますよ。インストゥルメンタルで演奏するとい曲あるんです。宇多田ヒカルさんの『FIRST LOVE』とか、すごくいい。

on Dream — かなえたい夢 —

「2020年のオリンピックで演奏」

玉川：これからどんな活動を考えられていますか？

SHOGO：先日、仙台に行ったんですがアツかったですね。またやってみたいと思います。それと……海外でストリートライブをしたいですね。

玉川：日本一とか、デビューが目標ってよく言いますが、夢は世界なんですね！

SHOGO：楽器が楽器だから海外でも通用するかなって（笑）。あとは自

分を磨いて、通用するジャンルにできるかなって。

玉川：2020年にはオリンピックもありますから！

SHOGO：関わりたいです。最近、ボクサーの和気慎吾選手の祝勝会で国歌演奏をやらせていただいたんですが、演奏していてゾワッとしました。今後も、アスリートに呼んでもらえるようになったらって思います。

for Readers — メッセージ —

「MUSIC TRIBE 2015 に出演します」

SHOGO：9月の21日から23日まで『MUSIC TRIBE』っていう大きな大きな岡山県最大級の音楽フェスがあります。僕も9月21日にYEBISUYA PROで行われる前夜祭に出演します。本祭は岡山武道館、後夜祭もYEBISUYA PROで行われます。前夜祭は岡山出身のアーティストだけが出演していて、中西圭三さん、葛城ユキさん、まきちゃんぐさんと出演します。ぜひ来ていただい

たらと思います。

玉川：では最後に出演に向けて意気込みを。

SHOGO：もうセットリストとかこういうパフォーマンスもしようとかも考えているんですけど、実は新ユニットをその場で発表しようと思っています。だからそれを目撃しにきてほしいですね。演奏時間が40分もあるんでワンマンライブ並みに楽しめる内容になると思います！



SHOGO（ショウゴ）

クラブバイオリニスト。岡山県出身。1988年8月26日生まれ。5歳からヴァイオリンを始め、数々のコンクールでグランプリ受賞。岡山市ジュニアオーケストラのOBで、入団時に岡山市の姉妹都市であるアメリカのサンノゼ市、韓国の富川市での海外公演も経験。
 【Facebook】https://www.facebook.com/violinshogo

◆コンピレーションアルバム『どれみふぁ空』リリース

岡山の若手ミュージシャン応援プロジェクト。10組のミュージシャンの楽曲10曲が収録されている。参加アーティストは、SHOGOのほか、にい feat きむち、吉永拓未、ウヨリ、えだまめ、★Acky ★ honoka、糸田勝哉、あそべ、真鍋大輝。発売中。¥1500。各アーティストによる手売りのほか、岡山県内の島村楽器店内で販売。



ダンスで
アースを
ハッピー
に



DANCE

photo report

去る7月14日岡山市の
今回のスペシャルゲストは「ダン
事前抽選と当日抽選
また新曲「BEAUTIFUL N



SOULIVE



EARTH PARTY

at JAPAN MOVE UP special edition vol.6

イオンモール岡山市、未来スクエアにて「JAPAN MOVE UP special edition vol.6」が開催されました。
 「ダンスアースパーティー」正式メンバーの EXILE ŪSAさん EXILE TETSUYAさん Dream Shizukaさんの3名。
 選で選ばれた600人のファンの前で、ここでしか聞けない様々な、元気になるトークが行われました。
 「DANCE EARTH PARTY」が番組内で流れる中、ファンの目の前でダンスと歌をサプライズで披露し、大熱狂の1日となりました。

今回の収録の様子は、Podcastにてノーカット版 配信中!!

<http://www.jfn.co.jp/moveup/>



JAPAN MOVE UP supported by TOKYO HEADLINE

日本を元気に!! | TOKYO FM (80.0MHz)
毎週土曜日 21:30~21:55

「日本を元気に!」をテーマに、毎回各界の著名人をゲストにお招きし、元気になるためのトークをしています。リスナーの方が思わず元気になれるトーク満載で、東京で絶賛放送中です。

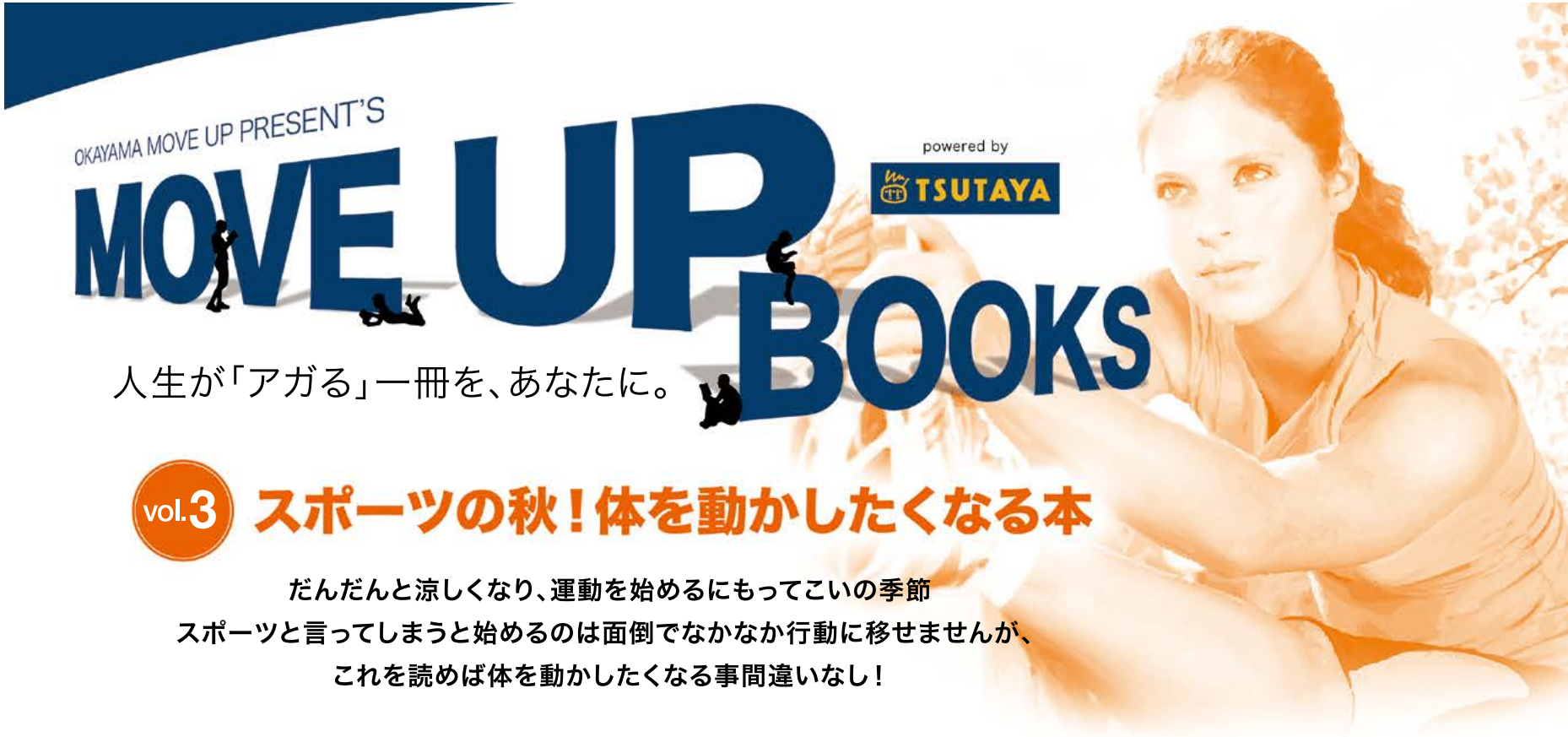


2015.7.14 JAPAN MOVE UP special edition vol.6 with DANCE EARTH PARTY



THE JAPANESE

OKAYAMA MOVE UP



人生が「アガる」一冊を、あなたに。

vol.3

スポーツの秋！体を動かしたくなる本

だんだんと涼しくなり、運動を始めるにもってこいの季節
スポーツと言ってしまうと始めるのは面倒でなかなか行動に移せませんが、
これを読めば体を動かしたくなる事間違いなし！



Category『読み物』

風が強く吹いている

著 者：三浦 しをん
出版社：新潮社

Comment from TSUTAYA

最後の章は涙が止まらない。これほどまでに感動する作品に、あったことがありません。涙が溢れ、共感してくれる人が沢山いると思います！走るのが苦手の私でも、彼らの仲間に入りたいなと思ってしまいました。

select.01



Category『読み物』

空手道ビジネスマンクラス練馬支部

著 者：夢枕 獏
出版社：文藝春秋

Comment from TSUTAYA

読めば身体を動かさずにはいられません。ヤクザにからまれて土下座させられたサラリーマンが一念発起して空手道場に。臆病で運動不足な主人公が身体が変わるほど、空手に打ち込み心身ともに強くなる姿は痛快。

select.02



Category『読み物』

DIVE!!

著 者：森 絵都
出版社：角川書店

Comment from TSUTAYA

メジャーでないスポーツ、「飛び込み」をテーマにした小説、マイナーなスポーツと思いましたがこれがとても面白い。「勉強に疲れて、やる気のない中高生」「仕事に疲れた中高年サラリーマン」に特におすすめ。

select.03



Category『ビジネス』

シメオネ超効果 リーダーの言葉で今あるチームは強くなる

著者：ディエゴ・シメオネ 出版社：ソル・メディア

Comment from TSUTAYA

欧州サッカー界で最も注目される名將のリーダー論。なぜ、1/4の資金力でレアル・マドリーとバルセロナを倒し、スペイン王者になったのか？欧州サッカー界で注目される名將が、アトレティコ躍進の秘密を語る！

select.04



Category『スポーツ』

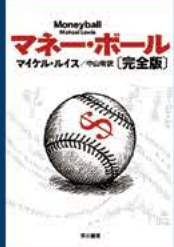
やっばはいけない筋トレ

著 者：坂詰真二
出版社：青春出版社

Comment from TSUTAYA

スポーツではないのですが、最近筋トレしています。体重はあまり変わりませんが、2ヶ月続いた今、身体が締まってきました。筋肉の付き方、タンパク質がどう変化していくのかわかれば、ダイエットにも役立ちます。

select.05



Category『スポーツ』

マネー・ボール

著 者：マイケル・ルイス
出版社：早川書房

Comment from TSUTAYA

野球ファンじゃなくても面白いです。貧乏野球チームが知恵を絞って金持ち野球チームよりも強いチームを作っていくさまが爽快。野球ファンはもちろんだが、野球を知らない人にとっても必読のビジネス本？！

select.06



Category『脱出ゲーム』

リアル脱出ゲーム 公式過去問題集

著 者：SCRAP
出版社：スモール出版

Comment from TSUTAYA

「リアル脱出ゲーム」の名作公演を、紙上で再現＆追体験。付属品を使いながら考え悩み、謎がとけたときには強烈に気持ちよいです。過去問でウォーミングアップができれば、リアルに参加して頭と体を動かそう。

select.07



Category『脱出ゲーム』

人狼村からの脱出 狼を見つけないと、殺される

著 者：SCRAP
出版社：リットーミュージック

Comment from TSUTAYA

「リアル脱出ゲーム」のおすすめ名作。半月くらいかかってクリア！ものすごい達成感！1日中ずっと出来ませんでしたが、時間があるとなつてしまふ。生活が不規則になるくらい面白いので購入注意。

select.08



Category『脱出ゲーム』

ふたご島からの脱出 少年は戻りたいと思った。 少女は救いたいと願った。

著者：SCRAP 出版社：リットーミュージック

Comment from TSUTAYA

「リアル脱出ゲーム」のおすすめ名作。2冊を交互に持ちながら、シートに書き込んでいく作業が楽しくて最高。一番最後の謎には数日悩まされたが、最後の謎が解けたときは、寒気がした。2人プレイもおすすめ。

select.09



Category『脱出ゲーム』

十人の憂鬱な容疑者 素敵なパーティ、死体がふたつ

著者：SCRAP 出版社：リットーミュージック

Comment from TSUTAYA

「リアル脱出ゲーム」のおすすめ名作。今作はアンサーシートやアイテムなど、リアル脱出ゲームに近い仕組みが取り入れられていて面白さ倍増。面白さは変わらず、他作品とは違った感覚を味わえる傑作。

select.10

News! 秋の入会キャンペーン

今、右記のTSUTAYAでレンタル入会すると



さらに CD/DVD 入会金無料！
レンタル 2 枚無料！
※新作は対象外です

実施期間：9月19日～10月30日

キャンペーン実施店舗

TSUTAYA 岡山西大寺店	TSUTAYA 大安寺店	TSUTAYA 玉島店
TSUTAYA 中庄店	TSUTAYA A Z岡南店	TSUTAYA 玉野店
TSUTAYA 古新田店	TSUTAYA 水島店	TSUTAYA 総社東店
TSUTAYA 児島店	TSUTAYA 高屋店	TSUTAYA ノースランド店
TSUTAYA 十日市店	TSUTAYA A Z平井店	TSUTAYA 山陽店
TSUTAYA 津島モール店	TSUTAYA 中島店	

★店舗検索は「TSUTAYAアプリ」が便利です。
※レンタル入会には、運転免許証等の本人確認書類が必要です。
※更新のお客様は対象外となります。





Album.
TRUE COLORS

Artists.
ZEDD

Comment from HMV

2013年日本デビューを飾ったZEDD。レディー・ガガの賞賛をきっかけに世界で注目を集め、2014年のグラミー賞では「ベスト・ダンス・パフォーマンス賞」を受賞。EDMとポップのエッセンスを高次元で融合させたクオリティが日本の多くのフォロワーを獲得してきた。どんなスポーツでもアガる1枚！



Album.
BODYBANGERS

Artists.
Bodybangers

Comment from HMV

ドイツ出身のAndreas Hinz と Michael Muller からなるDJユニット。超特大ヒット曲Alexandra Stan の「Mr.Saxobeat」や、EDM シーンで絶大な人気を誇るDimitri Vegas「Ocarina」など、超有名アーティストのオフィシャルRemix も手掛ける新星！各楽曲多彩なアーティストと共演！！Remix、プロデュースとヨーロッパで大活躍！！一歩先を行くスポーツミュージックはこちら！！



Album.
Skrillex And Diplo Present Jack U

Artists.
Skrillex & Diplo

Comment from HMV

EDM界で圧倒的な知名度を持つEDMモンスター、Skrillexと、DJ & 人気プロデューサー、Diploによるスペシャル・ユニット＝JACK U。この二人が最強＋最高のタッグを組めば、話題にならないワケがない！これを聴けば盛り上がりは止まらないこと間違いなし！！



Album.
Pharmacy

Artists.
Galantis

Comment from HMV

只今EDMシーンをお騒がせ中のスウェーデン人EDMエレクトロ・デュオ、GALANTISが遂にメジャー・デビュー！！ 完成された本作には、ギャランティスの二人曰く「“精神の安定”という理想に近づくための、超越的自己治療を探索するなかで発見した13曲」が収録されているという。世界を躍らせるEDMエレクトロ・デュオがこの夏日本を躍らせる！



Album.
Neon Future Part.2

Artists.
Steve Aoki

Comment from HMV

イギリスの人気クラブ/DJ雑誌『DJ MAG』にて全世界人気DJのTOP8にランクインするなど絶大な支持を集める地球NO.1パーティー野郎ことスティーヴ・アオキ！ パーティーもスポーツも好きな人はぜひ！絶対アガります！！



Album.
Forever

Artists.
Alesso

Comment from HMV

美しすぎるメロディーでEDM界に革命を起こすスウェーデン出身23歳のニューヒーローAlesso。あのマドンナも「ダンス・ミュージックにおいて次に注目すべき存在」と評し、2012年の自身のMDNAツアーに起用。スポーツのちょっとと息に聴くとまたアガります！！

毎回、各テーマに沿った「アガる音」をご紹介します！是非、チェックしてみてください！！

MOVE UP! SOUND

いい音に出逢えば、毎日がアガる。

powered by **OHMV**
the music & movie master

vol.4 スポーツの秋!! 「トレーニング中にアガる楽曲」

日頃、トレーニングやランニングをしている人もそうでない人も、健康を維持するために音楽を聴きながら楽しく運動を始めてみませんか？「じゃあ何聴けばイイの？」そんな方に、HMVが独断でチョイスしてみました！しかも絶対アガる曲ばかりなので、スポーツのパフォーマンスが高まるかも！



Album.
Bigfoot -Special Japan Edition-

Artists.
W&W

Comment from HMV

数々のEDMヒット曲を生み、2014年度世界DJランキング18位にランクインしたオランダ人DJデュオ。。トランスとEDMのいいところをバランスよく聴かせる良質のビッグ・ルーム・サウンドが特徴。スピード系のスポーツの相性は抜群！！



Album.
Born in the Echoes

Artists.
Chemical Brothers

Comment from HMV

斬新なビート・センスと先進的なトラック・メイクで数多くのヒット作を世に送り出し、ロックとダンス・ミュージックを繋ぐ架け橋としての役割を大きく担ってきたパイオニア的存在。みんなもう、踊らずにはられない。



Album.
Aurora

Artists.
Iyaz

Comment from HMV

カリブ海ヴァージン諸島発のシンガー、アイヤズの約5年ぶりとなるセカンド・アルバム。冒頭の「ONE MILLION」から代名詞と言えるキャッチー・チューンが炸裂しまくって、「ブチョヘ〜ンザッ」のサビが最高の「ONE MORE TIME」ほか、聴き進めるうちにホットな気分になれる一枚。これからの季節、外で聴くと体を動かしたくなります！



Album.
Fatboy Slim Presents Bem Brasil!

Artists.
Fatboy Slim

Comment from HMV

世界を代表するパーティDJ、ファットボーイ・スリムのアルバム。2014年のブラジルW杯と2016年のリオ五輪を記念した一枚で、ジョージ・ベンヤセルジオ・メンデスといったブラジル音楽のリミックス音源が楽しめる。あの時の感動をもう一度！そして今聴いてもアガります！！

「“人の手”を感じられる、街の眼鏡店でありたい」 —— 岡山眼鏡店 代表 猪原和樹さん



「眼鏡って楽しい！」 ちょっと自慢したくなる、私の街の眼鏡店。

レトロモダンな雰囲気が漂う、洗練されて落ち着いた店内にはオーナー自らが一つひとつ吟味した、こだわりの眼鏡が並ぶ。岡山眼鏡店は“うちの街にはこんな素敵な眼鏡屋さんがあるんだよ”と少し自慢したくなる眼鏡店だ。そんなお店を岡山駅西口・奉還町に開いた理由を、オーナーの猪原さんはこう語る。

「まず街並みがポイントでしたね。駅から近くて便利な立地なんだけど、どこか下町感が漂う感じが気に入ったんです。当店ではアンティークのものやクラフト感のある眼鏡を多く取り扱っており、そのイメージで店内にもアンティークのインテリアなどを置いています。駅前には大型店もありにぎやかですが、一步店内に入れば、待ち時間の間も落ち着いて過ごすことができる空間づくりを意識しています」

店名に“岡山”を入れたのも地域に根差す店づくりを、との思いから。「もともと僕が岡山出身ということもあるんですが一番は、やはり地域に根差した店でありたいという思いがあったからです。眼鏡店の仕事は買ってもらうまでではなく、むしろその後。お客様に心地よく眼鏡を使い続けてもらうことなんです。毎日

使っていれば歪みも出るし汚れもします。アフターケアもしっかり応える、地域に根差した眼鏡店でありたい、岡山の皆さんに良い眼鏡を提供していきたいという思いを込めて岡山の文字を入れました。それと岡山を代表するような店になりたいという気持ちも含まれています（笑）」

そんなオーナーのこだわりは取り扱う眼鏡をはじめ随所に表れている。「昔の眼鏡屋さんの時代からやっていたような細かな手作業や、最先端の加工機でできること、どちらも素晴らしいんです。この技術を組み合わせ、最高の眼鏡を提供しています。昔から『温故知新』という言葉が好きなのですが、古いものを受け継ぎ、それを知った上で新しく正しく変化させる。そういったことを意識して、日々お客様に合う眼鏡を提供しています。あと、お客様に対しては“向き合う”というより“同じ方向を向く”ことを意識しています。お客様の求める“見え方”というのは千差万別。僕らの意見を押し付けるのではなく、お客様のご要望や不満と一緒に介在していくことが大切だと思っています」

手をかけるというこだわりが、眼鏡の可能性を広げていく。

「昔から“半医半商”、眼鏡屋は半分医療で半分商売といわれ、見え方に何かあれば相談に行くような、地域

岡山眼鏡店・オーナーの猪原さん。なんと偶然にも“眼鏡の日”10月1日生まれ。県内の老舗眼鏡店で経験を積み、認定眼鏡士の資格を持つ。2015年3月「見えかた・見られ方・心地よさ」をテーマに岡山眼鏡店をオープン。ちなみに店のロゴは、現存する日本最古の眼鏡といわれる京都・大徳寺に収められている眼鏡をモチーフにしている。

に密着した存在でした。最近ではそれが薄れてきて、なるべく合理的に手をかけない店も増えているように思います。でも、人の手が加わることで眼鏡を作るときの細かな調整もできますし、メンテナンスによって良い状態で長く使ってもらうことができる。それが大切なことだと思っています」

プロが考えるメンテナンスの重要性とは？

「毎日使う物なので、できれば年に1～2回はお店でメンテナンスをしてもらうのがおすすめです。長期間使用しなかったときなども、一度お店で確認するのが良いと思います。よくある超音波洗浄機を利用する方も多いと思いますが、実はあれを使って水分が部品の中に入り込んだままにしている人がけっこういます。当店では基本的に部品もすべて外してケアするので、数日お預かりすることになりますが、やはり定期的にプロにメンテナンスしてもらうのが一番だと思います」

“眼鏡愛”あふれるオーナーの話を聞いていると、眼鏡の可能性がどんどん広がってくる。

「本当に眼鏡が好きなんです（笑）。個人的に持っている眼鏡も、200～300くらいにはなりますね。もうコレクション状態です（笑）。でも、その気持ちが、どんな商品を扱うか、どんなサービスをするかといったことすべてにつながっていると思います。眼鏡は面白いですよ。同じブランドでも、どこにこだわってどう作られているか、それぞれ違いますし、使う人がいる



から出来上がるものもまったく違ってくる。やっぱり“人がいる”から面白い。眼鏡が出来上がっただけでは意味が無く、お客様が気持ち良く眼鏡をかけてくれるには何が必要なのかを考えないといけな。デザイン、機能、素材、品質…完成までの一つひとつを考えると、好きじゃないとやっていられないでしょうね（笑）」

今後の夢を尋ねると、わくわくするような答えが返ってきた。

「いつかハンドメイドで眼鏡を作りたいですね。出来上がるまでの行程一つひとつを手作業でできたら、究極の眼鏡ができるんじゃないかな（笑）。でも一番の夢はやっぱり、一人でも多くのお客様に、良い眼鏡を気持ち良く使ってもらうこと。それに尽きます」

最後に読者にメッセージを。「眼鏡って、すごく楽しいものなんです。ネガティブにとらえず、ぜひ楽しんでほしいですね」

眼鏡の楽しさも教えてくれる。そんな“居場所”になりそうな眼鏡店だ。

『岡山眼鏡店』

【営業時間】10～19時【定休日】火曜日、第2、第3水曜日【TEL】086-250-6170【住所】〒700-0026岡山県岡山市北区奉還町2-15-15【提携駐車場】西口パーキング【URL】<http://kawasorasankai.com/>





Today's GUEST
平野 裕治 Yuji Hirano
株式会社マルゴデリ 代表取締役

岡山 おがやま

-Represent OKAYAMA-



INTERVIEWER
BAZ-K
THE MANSION オーナー

vol.4 『マニュアルのないお店の、岡山への想い。』

アーティスト活動・アパレル・イベントプロデュース業など、多岐に渡り活動を行うBAZ-KがMCとなり、毎回様々なジャンルの方をお招きし、岡山代表として、あらゆる視野から、“ぶっちゃけ”で対談を行うコーナー。

今回は岡山県民なら誰もが一度は目にしたことのある人気ドリンク店『マルゴデリ』の平野社長が登場。マルゴデリが始まったきっかけや、今後の展望など、ワクワクする内容満載でぶっちゃけトークを行いました!!

photography: 西平 佳史(内田伸一郎写真事務所) / place: マルゴデリ田町店

**PIONE
•JUICE•**

岡山県産ピオーネ使用!
ジューシーな果汁と果肉!
濃厚なピオーネの
おいしさが味わえます

ピオーネ
ジュース
スモールサイズのみ
¥500
(税込 ¥540)

THE MANSION
NEW STANDARD RELAX
3-8 HEIWA ST
238-7793

営業時間
11:00~20:00(平日)
11:00~21:00(土・日)
BAR
OPEN~25:00(平日)
OPEN~26:00(土・日)



Instagram
@the_mansion33



Facebook
THE MANSION



twitter
@THE_MANSION33



the mansion 岡山



〒700-0827 住所: 岡山県岡山市北区平和町3-5 TEL:086-238-7793 HP <http://shop.themansion-web.com>

BAZ-K（以下、B）：もともとマルゴデリのスタッフだった平野さんがマルゴデリの代表になっていった経緯を教えてください。

平野（以下、平）：もともとマルゴデリ1号店の田町店が始まる前は、倉敷にある丸五ゴムさんという地下足袋や靴のソウルを作っているゴム屋さんがここでお店をしていたんです。そのお店がここでの営業をやめるタイミングで、NPO の方にこの場所を街の活性化に使えないかと持ちかけ、NPO の方から前社長に話が入り、だったらコーヒースタンドでしようかということでこのお店が始まりました。ただコーヒーだけだとパンチ力がないので、岡山と言えば**フルーツ王国**だからという理由で、フレッシュジュースも始めました。最初は誰からも見向きもされなかったんですけど、イチゴの季節に某岡山の媒体でお店を取り上げられてから一気に人が押し掛けて来て、認知も上がったんです。それが最初の年で、僕は次の年からマルゴデリに入ったんです。ちょうどお店がイチゴの季節の前に忙しくなるときで、そのとき僕自身は仕事をしていたので、いつものように行きつけのお店にいたら、そこにいきなり前社長がお店の前に来て、「今暇ならちょっとお手伝ってこないか？」って言われて、「いいですよ！」って返事をしたら、「じゃあ今から！」と言われてそのままお店に入ったんです（笑）。B：今まで飲食経験はあったんですか？平：ドリンク業態は初めてで、カフェのカの字も知らなかったです（笑）。そんな状態でお店に入って、当時はクラブで遊んだり、ラップをしたりとお昼に動くことが無かったのとまどいましたよ（笑）。それからちょうど2ヶ月ぐらい経ったときに「店長をしてくれないか？」と言われて、そこからこのマルゴを仕切るようになって、それからロッツ店やクレド店が出来たりして、その辺りから事業部長になりマルゴ全店を見るようになりました。それからしばらくした 28 歳のときに、一度会社を止めて独立して、車でアチコチ周りながら移動販売でドリンクを販売していました。B：あのときは独立していたんですね！平：そうなんです。岡山の某ショップを拠点にしながら県外にも行ったりして。B：そのときの反響はどうだったんですか？平：人との出会いはすごくおもしろかったです。単身で車に乗って県外に行くと、行った先の人も初めてなので興味津々だったりして。そんなときに前社長から戻って来てくれないかと言われたんですね。当時経営がしんどくなってきていて、自分もいつまで車で回れるかもわからないし、いいですよ！って軽い感じで戻ったんです（笑）。前社長はそのときから会社を分けることを考えていたみたいで、当時は業績もあまりよくなかったんですけど、「会社を分けてやってみ」と言われ、それがきっかけで会社を分けて独立したんです。



B：岡山県産の果物を使ったフレッシュジュースが特徴的なのですが、やっぱりこだわりがあるんでしょうか？

平：『晴れの国おかやま』は日本でも有数のフルーツ王国なんです。イチゴ、白桃、ビオネ、梨など季節を追って様々なフルーツが採れるし、日照時間も長いので種類も多いんです。そんな岡山でフレッシュジュース屋さんをやる以上は、アピールにもなるし、それに触れない手はないだろうということで、岡山のフルーツを使っています。当初は、ずっとコーヒースタンドです、っていうスタンスだったんですけど、雑誌で取り上げてもらったことで、一気にフレッシュジュースの人気が出たので、お客さんから見たニーズに合わせて、

フレッシュジュースにもこれまで以上に力を入れていこうとなりました。なので最初は八百屋さんから果物を仕入れていたんですけど、今は完全に市場の仲卸屋さんから仕入れています。夜に注文を出して、翌朝に競りで落としてもらって、それをそのまま配送してもらっています。結構僕自身が味にこだわっているのも、バナナ1つでも、どのブランドで、どこで育ったものかなど、ひとつひとつ注文をつけています。B：今バナナなどマルゴで取り扱っている果物の特徴は何なんですか？

平：全店ではないですが、**オーガニックバナナ**ですね。市場も通さずに直接商社から買っています。オーガニックのバナナって日本にはあまりなくてすごく珍しいんです。というのも南国から持ってくる途中にどうしても虫が湧いてくるので、燻蒸というかなり強い煙の薬品をまきながら運んでいるんですね。普通に売っているバナナはそういった処理をしているバナナなんです、うちのバナナはそういったことを一切しない有機栽培のバナナなんです。その他のフルーツは同じ手法のものがなかなかないんですけど、石関町店は特にオーガニックにこだわっているのも、キウイとアボガドも同じオーガニックのものを使っています。B：全店で行っているわけではないんですか？

平：**砂糖以外の添加物を極力入れないフレッシュという基本コンセプト**はもちろん全店共通なんです、その中でも**特化しているのが石関町店**なんですね。なので料理に使っているスパイスやお米など手に入るものは全て有機のものを使っています。

B：その反面で有機にこだわるとコストも高くなりませんか？

平：ダントツで高いですね。ただ、フレッシュを売りにしたお店をやっている以上、コンセプトショップを持って、コンセプトをよりはっきり見せるべきなんですね。石関町店はその店舗なんです。なので経営として全店舗を同じにするのは難しいんです。オーガニックって自然のもののはずなのに、不自然に高いので（笑）。なのでこだわりが強いお客様には是非、石関町店に行っていたきたいです。

B：確かにお客様の層を見ても各お店で違いますもんね。

平：そうですね。この田町店という一番ストリート寄りの店舗だしね。

B：ここは岡山でもメインストリートで、目印にもなるし、集合場所にもなりますよね。

平：そうですね。だから県外の方もおもしろがってくれるんですよ。

B：それこそ僕の知り合いが関東方面から来た時に、このお店を見てフレッシュジュースやりたいつてなっていたし、県外のビジネスモデルにもなってるかもしれないですね。それでいうと今後の店舗展開は岡山をベースにするのか、先ほど話に出ていた車で移動販売だったり、どんな考えをもっているんですか？

平：移動販売で言う、車で行くかはわからないけど、**イベント出店用のキッドを作りたい**です。それを持っていけばどこでもお店が出店できるというようなもの。野外フェスだったり企業のイベントにもよく呼んでもらえるので、行った先で仮設感ではなくちゃんとしたお店としてやりたいんです。ただそれは事業としてというより、**みんなフェスやイベントが好きなので楽しむためにやりたい**ですね。あとは岡山の中でマルゴデリを増やしていこうという考えは今のところ強くは考えていないですね。



B：県外からのオファーはないんですか？

平：山ほどありますよ（笑）。でも**ほとんど断っています**。

B：それは理由があるんですか？

平：一番の理由は、先ほども話したように果物にこだわりを持っているので、それが県外に行ったときに、そのままのこだわりを続けるのが難しいですね。それをフランチャイズ化するとそれなりのマニュアルも作らないといけない。そうなるマルゴデリの良さが一気になくなってしまいますよ。

マニュアルのない何とも言えない雰囲気は街に馴染んでいる



ひとつのポイントだと思っているんですね。

B：ローカル感って実際の場所に来ないと感じれないですね。今ではネットでもオーガニックのものが手に入る中で、

マルゴさんの空気感やバイブスは現場でしかわからないですね。



平：そうですね。だから県外出店はいい話があれば、コンセプトをどこまで繋げていけるかを考えます。

B：それでいうと、例えば北海道だとメロンがあったり、宮崎県ではマンゴーがあったり、その場所のフレッシュジュースも僕らとしては見てみたいんですけど、その辺りはどうなのでしょう？

平：確かにおもしろいんですけど、それだと岡山というよりは、行った地場の果物を使った、というぐらいの打ち出しになるので、県外進出は大きくは掲げていないですね。でも逆に、広島や神戸などでやりたい！という**自社のスタッフ**がいれば、コンセプトもきっちり作れば、全然有りだと思っています。

B：それなら表現したい**クオリティーやイズムが通っていますもんね**。通常の出店オファーだと、マルゴが好きということではなく、商売目線でみられますもんね。

平：そうですね。イオンさんなどの店舗を見られると、お客様もたくさんいるので、いろんなテナント関係者の方から商売としてやってくれと言われるんですけど、それでは一番最初のコンセプトの部分が無い状態になるので、収益はいいかもしれないけど、イメージはマイナス面も大きいと思うんです。

B：逆にそれだけローカルを大事にして来た中で、イオンや、さんすてに出店した理由は何だったんでしょうか？

平：倉敷でいうと、倉敷の中で商売する以上、ある程度のお客様が来る見込みを立てる中で、エリアでいうと、美観地区周辺がイオンモール倉敷しか目処が立たなかったんです。そんなときにイオンモール倉敷で、岡山の有名店を集めたイベントがあったんですね。そのときに結構目立つことが出来て、その後イオンモール倉敷さんからお声掛けをいただいたんです。イオンモールでの出店という、**周りはナショナルチェーン店がほとんどという環境で、その中に小さいうちの店が入って勝負をする。そんな中でどこまでやれるかを知りたかったのが1つ**あります。

B：イオンモール岡山での出店はどんな経緯があったんですか？

平：うちは今 70 人ぐらいスタッフがいますけど、イオンモール岡山が出来るとわかったときは、誰もが想像するように路面店などの売上げは落ちると考えていました。そう考えると、こちらからの依頼はしなかったけど、イオンモール岡山

からオファーがあれば断るという選択肢は無かったです。正直、ストリートの人たちは、イオンにお客さんを持っていかれてしまうという恐怖心はあったと思うんですね。そんな中でうちぐらいはイオンモール岡山に入り、売上げを上げ、それを

岡山の街に還元しよう！

という**地場だからこそ**の想いがありました。

B：素晴らしい！考え方がストリートですね！！



平：これも計画した訳ではなく、たまたまだったんですけど、これを出来るとしたら、ストリートにも根付きながら、大型のお店にも入っているうちのお店かなと思ったんです。なので、**入らない選択肢は無かった**んですけど、入る以上はそういった還元をしようという考えです。

B：そういった大きな目標の中で、岡山を盛り上げるために、それが今の出来る事なのか、それともまた別に考えがあるんですか？

平：それでいうと別の気持ちはあるんですけど、まだ何から始めるかが見えていないんです。岡山の街、ストリートを、飲食店発信で盛り上げる方法は何があるか、近年模索中です。

B：以前に少し話したときに、マップを作りたいと言われていましたよね。僕らも協力できることはしたいと思っていますよ！

平：そうそう！それはしたいんですね。それこそ知っているショップばかりなので、そんな人たちみんなで作りたいんですよ。

B：では最後に今後の目標を教えてください。

平：さっきも話したんだけど、店舗展開をしている状態も、ちゃんとした経営的な計画というよりは、本当に流れて今日まで来ているんです。なので、次はこんな大きい事業をしますというような目標はないんですが、**実は1つやりたいのが、一番最初のルートでもあったコーヒースタンド**。うちの果物のこだわりと同じように、実はコーヒーにもすごくこだわりがあるんです。

B：そのこだわりという？

平：まず使っている豆なんですけど、オープンした当初からやってくれているロースターさんがいて、その方がすごくコーヒーに対してオタク気質な方で、その方たちがグループで海外から豆を買い付けるんです。その豆は品評会などでも上位にくるような豆で、最近よく耳にするようになったスペシャルティコーヒーももちろんスペシャルティコーヒーなんです、その中でもトップクラスの豆を使っています。なので、かなりのコーヒー通の方が飲むと、『え!？』ってなります。このお店の風貌で、こんなコーヒー飲めるの？というように感じて（笑）。通の方は結構知ってくれているんですけど、フレッシュジュースのイメージが強いので、未だにコーヒーを置いていることを知らない方もいます。なので原点に戻ってコーヒーを前に出していきたいです。今後は今は広島にいるロースターさんも岡山に呼んでしまっ、ローストした豆をうちに来てくれるお客様が家で飲めるように販売したりしたいですね。で、ゆくゆくは郊外に大きな焙煎機を入れて、**その焙煎している様子を見ながらコーヒーを飲めるような場所を作りたい**と思っています。今のカフェという文化は、うちの母体の Market がきたときの岡山は数えるぐらいしかなかったんですね。そんなときからずっと同じクオリティとこだわりでやってきているので、改めてコーヒーを根付かせたいですね。近々マルゴデリの名前でコーヒー専門店が出来るとかもしれません。

ここには書ききれなかった、ぶっちゃけトークの
続きはWEBで!!
<https://www.facebook.com/RepresentOKAYAMA>



DANCEの道

EXILE TETSUYA “男を上げる” Monthly Column supported by ANGFA

第37回

ツアーのリハーサル合宿、気合みなぎってます！

僕は EXILE のツアーのリハーサル合宿のために、とある場所まできています。ここでは広い会場で本物のセットを組立てて一曲ずついねいにリハーサルしています。僕たちメンバーのリハーサルもちろんですが、セットを組み立てる皆さんのリハーサルでもありますし、照明さん音響さん映像さん舞台周りの皆さん、バンドメンバーやサポートの皆さんなど、ツアーに関わってくれているすべての皆さんのリハーサルでもあるのです。改めてそのスタッフさんたちの 人数の多さにビックリするのですが、毎年お世話になっている方たちばかりなので顔を見ると安心感がありますし、また今年も始まるんだなあと、かなり気合が みなぎってきます！

今年のツアーは EXILE 単体ということで、これだけは言えます。めっちゃくちゃ踊ります（笑）。かなり体力が必要になるくらい、ハードなライブになり そうです。なのでその分トレーニングしないといけませんが、最近僕は気づいたことがあります。今まで「EXILE パフォーマンス研究所」の所長と名乗りながら、いろいろな取り組みやトレーニングをしてきまし

たが、実は僕、すごくトレーニングが嫌いなんだ、と…（笑）。嫌いと言ってもやりたくないわけではないのですが、だからこいろいろなトレーニングを試して、知識を蓄え、たくさんの経験をして一番短い時間で、一番楽しく、一番効率のいい自分に 合ったトレーニングを探しているのだと思います。だってトレーニングって辛いじゃないですか（笑）。特に一人でやっていると…。

なので最近はメンバーみんなでスピナーバイクを並べて全力漕ぎしています。みんなで並んで音楽をガンガンかけて叫びながらやるのが一番いいです!! そして最近導入された新しいシステムのおかげで全員の心拍数を一つの画面に出し、誰が今、どのくらい心拍数が上がっているかが一目で分かります。これに自分の最大心拍数を入れておけば、自分が最大の力を 100%とした時に現在何パーセントくらいまで追い込んでいるのかも分かってしまうという、何とも ありがた迷惑な機械なのです(笑)。まさにサボれません!!

今いる合宿所にもスピナーバイクがあって、今日もリハーサルを終えて疲れ

た身体にみんなで並んで更にムチを入れてきましたが、最近は新しく、長くて重たいロープを持って思っきり振るという悪魔みたいなトレーニングも追加されました(笑)。

同じ釜の飯を食べて同じトレーニングをして同じものを作り上げようと毎日みんなでいる時間がたまらなく好きです。初日まで 1 カ月を切り、最近は夢にもライブ会場の光景が出てきたり自分の心も身体もツアーモード全開になっていますので、9 月 11 日に大阪から始まる AMAZING WORLD に足を運んでくれたらうれしいです。

今年は MATSUさん、ÜSAさん、MAKIDAI さんと EXILE のパフォーマーとして踊れる最後のステージになります。今ある EXILE の DANCE スタイルはこのお三方がいたからですし、メンバー間の雰囲気だったり、なかなか言葉では伝えきれない EXILE らしさを作ってきてくださった先輩 3 人に対しての感謝の気持ちと共に、これから先もずっとリスペクトを込めて全力で踊らせていただきたいと思っていますのでぜひお楽しみに!!



神奈川県横須賀市出身。19歳からダンスを始め、横須賀、横浜、東京などのクラブイベントで活動。ダンススクール「EXPG」にてインストラクターをしながら、さまざまなアーティストのバックダンサーとして活動。2007年1月、新生 J Soul Brothers のメンバーに抜擢され、2009年2月にデビュー。同3月1日からは EXILE のパフォーマーとして多方面で活躍。

(TOKYO HEADLINE vol.649 より)

岡山から日本を元気に!!

OKAYAMA MOVE UP

かけがえのない
未来に夢を。

OKAYAMA MOVE UP とは——

JAPAN MOVE UP 「日本を元気に!」というテーマのもと、「東京から日本を元気に!」と活動を行うTOKYO MOVE UPプロジェクトと連携し、「岡山から日本を元気に!」をスローガンに掲げ、2013年4月から岡山の「人・街・未来」を「社会的活動」と「エンタテインメント」で元気にするべく活動をスタートしました。

会員は地元岡山の企業様をはじめ、個人会員の方まで幅広く同じ志を持つ方々に参加頂いているプロジェクトです。運営は各会員の会費によって行いますが、実行委員会が中軸となって各種団体・企業の皆様に活動をご支援・ご協賛を頂き推進して参ります。

OKAYAMA MOVE UP 実行委員会

PHOTO 夢の課外授業スペシャル（野球指導 工藤公康）



活動事例： 夢の課外授業スペシャル（野球指導 工藤公康 & サッカー指導 水内 猛）

JAPAN MOVE UP ラジオ公開収録（松本 利夫・三代目JSB 登坂広臣&ELLY・EXILE TETSUYA）※写真左から

OKAYAMA MOVE UP実行委員会 加盟企業一覧 （2015年9月11日現在）



総合建設業・一級建築士事務所
河野建設株式会社



株式会社DMM.com

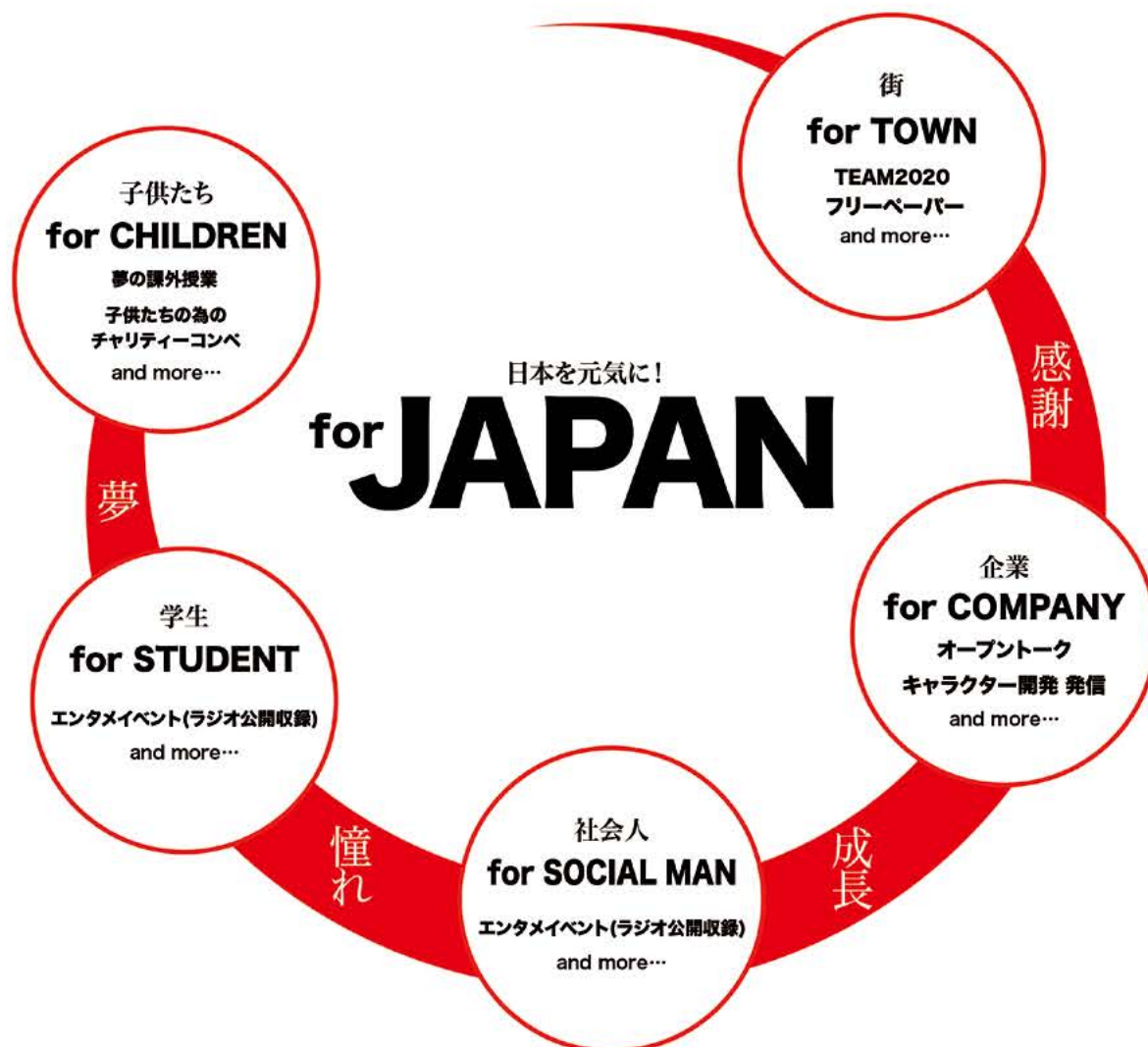
有限会社ル・クルジャポン

special partner



イオンモール岡山

岡山から日本を元気に!!



『岡山を元気に!』『岡山から日本を元気に!』をコンセプトに、フリーペーパーOKAYAMA MOVE UPの発行をはじめとし、各種イベントを実施するなどエンタテインメントを中心に岡山を盛り上げる活動を行っています。この活動が意義あるものとして皆様方によりご賛同頂けるよう、「岡山県民が元気になる」「岡山県民が岡山を好きになる」「他府県の方々が岡山の良さを知ってもらう」事を目的としています。

「日本を元気にする為に、まずは岡山が元気になろう!」

その為に何が必要か?子供たちに「夢」を、若者に「憧れ」を、社会人に更なる「成長」を与え続ける…それが企業を街を発展させ、岡山を元気にしていく事だと確信します。さらに TOKYO MOVE UP との連携による中央とのネットワークを生かしたコンテンツを創造し、若年層への「認知の拡大と巻き込み」を実現します。また地方創生のモデルのひとつとして「社会的活動」と「エンタテインメント」、「スポーツ」の融合による岡山を元気にするプロジェクト、それが OKAYAMA MOVE UP です。

OKAYAMA MOVE UP 2015

for CHILDREN

夢の課外授業

子ども達に「夢」と「生きる力」を! 未来に向け、子どもに夢をあたえ「生きる力」を考えさせるきっかけや、勇気を持って物事に立ち向かう大切さを知ってもらうため、2000年から各ジャンルの成功者達が、それぞれのスタイルで授業を行います。



実施例)2014.5.31
講師:工藤公康/氷内猛

for CHILDREN

子供達のための チャリティーコンペ

何かがおかしい今の社会、県内外で活動する有志・企業が集まり自分達で出来る社会貢献を。特に未来を担う子供達をサポートしようとこの活動が始まりました。



実施例) 2014.11.11

for STUDENT & SOCIAL MAN

エンタメイベント (ラジオ公開収録)

TOKYO FMラジオ番組『JAPAN MOVE UP』の公開収録を岡山県内で実施。各界の著名人をゲストにむかえ、本物のエンタテインメントをライブで体感。



実施例)2015.7.14
ゲスト:DANCE EARTH PARTY (EXILE USA, EXILE TETSUYA, Dream Shizuka)

for COMPANY

MOVE UP オープントーク

岡山から日本を元気にする為に、岡山で活躍する若手経営者などをパネリストにむかえ、どのような街づくりが必要か、何をしていくべきか等を話すシンポジウム。



実施例)2015.5.23
ゲスト:内閣官房副長官 加藤 勝信 等

for TOWN

フリーペーパー 『OKAYAMA MOVE UP』

隔月11日 30,000部発行。岡山市、倉敷市 約200カ所に設置。「読んで元気に!」をテーマに、各界で活躍する著名人のインタビュー記事などを中心にしたフリーペーパー。



for TOWN

TEAM2020 ネットワーク展開

東京オリンピック・パラリンピックの開催が決まった2020年に向け『アクション宣言』をもとに、多くの人びとが参加可能な日本を元気にしていくネットワークを展開。



実施例) ラジオ公開収録時、同時に開催

54 JAPAN MOVE UP WEST

OKAYAMA MOVE UP

隔月誌【オカヤマ ムーブアップ】 2015年9月11日発行 vol.16 SEPTEMBER

●発行人／源 真典(株式会社HEADLINE WEST) 一木 広治(株式会社ヘッドライン)
●発行所／株式会社HEADLINE WEST
〒700-0925 岡山県岡山市北区大元上町12・14 Leeビルディング4F TEL.086-250-8089
●編集・製作／株式会社ヘッドライン
〒151-0051 東京都渋谷区千駄ヶ谷2-9-6/バルビゾン3 403号

